



考 動

川西市立東谷中学校
学校便りNo. 5 (01. 7. 16)
発行者 校長 足立 仁志

<保護者の皆様へ>

東谷中学校 学校運営協議会について

保護者のみなさまには以前にもお伝えいたしました通り、今年度東谷中学校は、学校運営協議会制度導入校（コミュニティー・スクール）となりました。先日（7月11日）に第2回の学校運営協議会を開催いたしました。

会の冒頭、校長より、東谷中学校並びに生徒の現状から、学校運営協議会に期待することについてお話をさせていただきました。

予測困難な将来社会をたくましく生き抜く生徒を育成するためには、これまで行ってきた学校教育活動だけでは不十分だと言われています。本校においても、与えられた課題に対してまじめに取り組むことができる生徒が多い反面、受け身になりやすく、主体的に考え行動する力にやや課題が見られます。

この課題を解決するために、学校運営協議会にご協力をいただこうと考えています。先生以外の人からの学びや、学校を離れた場所での活動などを通して、学校教育だけでは身につけることが困難だった資質や能力（自分たちで課題を見つけ解決する能力）を養っていきたいと思います。

そこで、校長の考えを具現化するために必要となる「部会」を三つ設け、それぞれに独立した取組をつくって頂きます。

□進路支援部会

変化が激しい現代社会においては、以前にもまして自分らしい生き方を見つけることが必要になります。自己の理想を実現しているモデル（大人）と数多く接することや、様々な考え方や生き方、働き方に触れることは、キャリア形成につながる有意義な学習の機会になると思います。そのために、教員以外の大人から学べる機会を提供していきたいと考えています。

□地域連携部会

近年、生徒たちを取り巻く環境は大きく変化しています。特にSNSの発達により直接コミュニケーションを行わない場面が増えます。しかし、相手のことを理解し、望ましい人間関係を築いていくためにはコミュニケーションは非常に重要です。将来の社会

においては今以上に、価値観や文化が異なる人たちともコミュニケーションをとり、協力し合って課題を解決する力が求められるようになります。

学校を離れた場所（地域社会）での活動は、自分とは違う立場の人とも協力し合い、ともに課題を解決する力を養うことにつながります。また、これまでに学んだことや身につけた力が社会で発揮できるかを試す機会にもなります。

□学校支援部会

本校ではこれまで、外部の方からの学校に対する支援は、その大半をPTA活動に頼ってきました。PTA活動によって、多くの教育活動が支えられていますが、その反面、今の状態は、学校に対する協力者を一部の人限定してしまうことにつながっているのかもしれません。

そこで、学校サポーターを登録制にし、「できる時にできる事」でご協力いただくようにすれば、より多くの方に学校教育に関わっていただくことができます。またそのことは、学校をより良く理解する人を増やすことにもつながると思います。

<お願い>

下の図は、本校学校運営協議会の組織図です。各部会名の下には、実現できる可能性のある取組を挙げていますが、あくまでも校長の私案にすぎません。これ以外にもっと良い取組が見つかるかもしれません。

とにかく大切なことは、生徒たちにとって必要なことは何かを考え、しっかり準備をした上で取組を提供することだと思います。今後、できる事から活動を始めてまいります。保護者の皆様には、学校運営協議会の趣旨をご理解いただき、この取組が、生徒たちの将来にとって有意義な活動になりますよう、ご協力をお願いいたします。

東谷中学校コミュニティスクール推進組織

